



# 大阪木津地方卸売市場

## セリ場、仲卸店舗も空調完備

### 水産棟がリニューアルオープン

みなと新聞 3月30日

【大阪】大阪木津地方本橋次社長がホシザキ卸売市場(大阪市浪速区)の水産セリ場や水産仲卸店舗などが全面リニューアルし、30日から営業を始める。開設者の大阪木津市場(山本橋次社長)が総工費約40億円をかけて進める現在地での全面建て替え工事の一環。水産棟のセリ場や仲卸店舗などをすべて屋内に収容し、夏場は全館を冷房でまわす。全館の卸売市場でも、水産棟がリニューアルした。東半分(青果仲卸店舗と駐車場など)、今春までの第2期工事と同棟西半分(水産セリ場や水産仲卸店舗、駐車場など)に温浴施設(大規模銭湯)を建設した。来春までの第3期工事で、1階に業

### 1月は4千人来場

#### 大阪府全域が「商圏」

#### 好評！木津の朝市

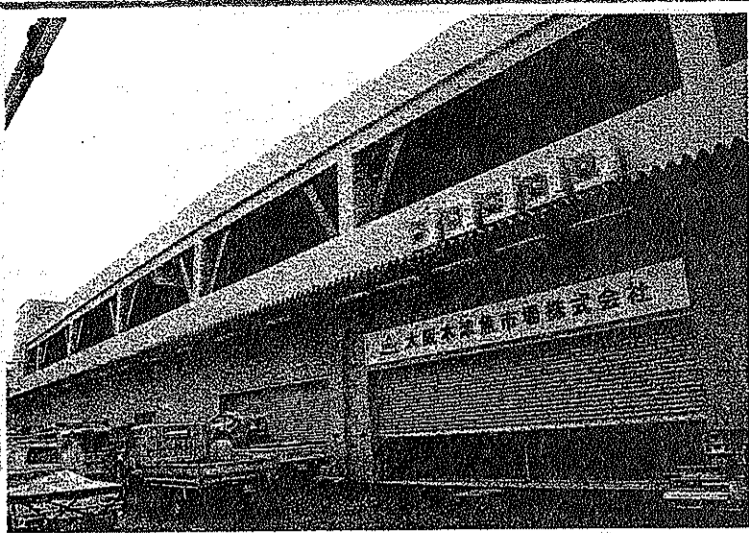
【大阪】大阪木津地方卸売市場(大阪市浪速区)の朝市が好評だ。昨年11月から水産や青果の仲卸、卸、関連業者などが市場を挙げて取り組み、毎月最終土曜日に開催。過去最多だった1月31日は「木津の朝市実行委員会」(小林宏行委員長)の推計で4000人以上が来場した。

大阪屈指の繁華街ミナミに近い恵まれた立地に加え、マグロの解体や無料ちゃんこ汁配布など、さまざまな企画が消費者の心をつかんでいるようだ。参加仲卸は当初五十軒だったが、今では80軒前後に増えた。

小林委員長によると、推計来場者は昨年11月が1000人、12月が1800人、今年1月が4000人以上、2月が2800人、大阪市内はもちろんで、箕面市、和泉市などからも車で1時間以上かけて訪れるという。

3月28日は水産物部の移転直前で「あまり積極的な宣伝活動を行わなかった」(小林委員長)が、スタート前から一般客が次々と来場。「木津の朝市」と書いた黄色いのぼりを立てた店を回って買い物を楽しんだ。

母親、息子と3人で大阪府堺市から来たという30歳代女性は「テレビで見て興味があったので、ホームベースで日時と場所を調べた。車で1時間かかったが遠いとは思わない。魚が安いし、面白いのでまた来たい。でき



水産棟がリニューアルした大阪木津地方卸売市場

# マグロ解体実演、即売大盛況

## 大阪市水産物卸協組「09食博覧会・大阪」ニチレイシフレック、スギヨなど出展

【大阪】大阪市水産物卸協同組合は4日、大阪・南港のインテックス大阪で4月30日から開催されている、食をテーマとした国内最大のイベント「09食博覧会・大阪」で「マグロの解体実演・即売会」を開催、多くの来場者が詰めかけた。

このイベントは昭和60年の開催から4年に一度実施されているもので、前回は国内外から約66万人が来場した。同組合では第一回から毎回参加し、今回はギハダマグロ、

2本の解体実演とともに来場者150人に300円、1000円の特別価格で販売。さらに購入者の中から抽選で30人にトキサケの切身、チリメン・干エビセット、ホタテ・タラコなどの北海道産品などをプレゼントした。会場には開始30分以上前からすでにマグロを買い求める長蛇の列ができ、巨大なマグロの解体が始まると歓声と拍手が沸いた。解体されたマグロはその場で販売され、瞬く間に完売となる大盛況ぶり。

また、今回のイベントにはこのほかにも、ニチレイシフレックやスギヨ、大起水産、フロラなど多くの水産関連企業・団体が出展したほか、全国の自治体からの出展も多数行われ、2日には橋下徹大阪府知事、東国原英夫宮崎県知事、仁坂吉伸和歌山県知事らが会場を訪れ、地元特産の水産物などをPRした。

なお、このイベントは今年10日まで開催され、最終日には長崎県によるマグロ解体・販売などが開催される予定となっている。



大盛況だった大阪市水産物卸協同組合によるマグロの解体実演・即売会

### 日刊水産経済新聞

5月8日

## 神戸市中央卸売市場が料理教室

神戸市中央卸売市場は、四月から子ども向けや成人向けの料理教室を始め、青果物や水産物を扱った各種教室を開く。教室で使う食材は市場内で調達する。神戸市内の有力ホテルに勤務するシェフの研修会なども開く。

教室の広さは約二百平方メートル、百人程度の収容が可能。子ども向けの料理体験講座や、成人向けの各種教室を開く。教室で使う食材は市場内で調達する。神戸市内の有力ホテルに勤務するシェフの研修会なども開く。



店頭で消費者とコミュニケーションに取組む。小林委員長は「メールアドレスタは宝物。きょうまで四百数十人の会員が集まった。年内に2000人を目指し、今後ホームページを充実させたい」と意欲を見せる。